

校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。
今号は、北海道旭川東高校の、2年次の「総合的な探究の時間」で活用している
探究学習の計画書について検討した。

北海道旭川東高校

◎学校標語「シマレガンバレ」
◎学校大和を掲げ、校訓「生をよるこべ 矩にしたがえ 全力をつくせ」の下、品性と礼節を重んじながら自由を謳歌する校風を誇る。
◎「地域医療を支える人づくりプロジェクト」の医進類型指定校。
◎設立 1903 (明治 36) 年
◎形態 全日制・定時制/普通科/共学
◎生徒数 1学年約 240 人
◎2020 年度入試合格実績 (現役のみ) 国公立大は、旭川医科大、北海道大、東北大、東京工業大、京都大などに 152 人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ 321 人が合格。
◎ URL <http://www.ah.hokkaido-c.ed.jp/>



教務部
中川 清文 なかがわ きよふみ
教職歴19年。同校に赴任して4年目。保健体育科。「総合的な探究の時間」担当。



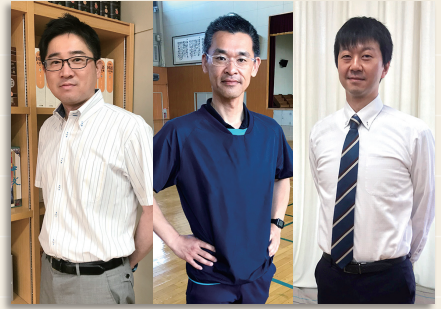
教務主任
柴田 朝幸 しばた ともゆき
教職歴12年。同校に赴任して6年目。国語科。「総合的な探究の時間」担当。



進路指導主事
花尻 健明 はなじり たけあき
教職歴13年。同校に赴任して6年目。数学科。2017年から3回、本コーナーに登場している。

改良会議実施校

北海道
旭川東高校



アカデメイア・プラン 2019

メンバー (リーダーの氏名に◎をつける)

組	番号	氏名	組	番号	氏名

1. 探究テーマ

2. テーマに関連する学問分野 (該当するものすべてに○をつける)

哲学・宗教学・史学・考古学・地理学・政治学・法学・経済学・経営学・商学・社会学・教育学・心理学
文化人類学・民俗学・言語学・文学・芸術学・デザイン学・情報学・栄養学・スポーツ科学・ジェンダー
数学・論理学・統計学・工学・物理学・建築学・天文学・地球惑星科学・化学・農学・生物学・食品科学
医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学・獣医学・歯産学・水産学・森林学・理化学・情報学

3. 探究デザイン

(1) 提案の方向性 (いずれかに○をつける)

問題解決型 価値創造型

(2) 価値の方向 (いずれかに○をつける)

社会的価値 学問的価値 経済的価値

③ 探究計画

① 目的 (どんな価値を提案するために探究を行うのか) ※縦線を引いて書くとよい。

② 仮説 (どんな結果が出るか、どんなモノが創られる (見つかる) のか) ※縦線を引いて書くとよい。

今回、改良するのはココ!

④ 方法 (どのようにして探究するのか)

○どのような調査・実験を行うか ※文献調査や思考実験も含めてなるべく具体的に書くこと。

○先行研究の有無 ※図書館やインターネットを利用して、同じような研究があれば必要を書くこと。

○必要物品 ※学校の物品等で借用したいものがあれば書くこと。

○渉外の有無 ※学校外の人に協力をお願いしたい、学校外の施設を利用したい等の要望があれば書くこと。

⑤ 具体的なスケジュール (適宜、線を引いて計画を記入すること)

日	内容
10/8	オリエンテーション
11月	3回開催があり、その中でテーマを選定する。
12/20	アカデメイア・プラン (書面) を提出。
2/6	中間発表 (クラス単位でPPTを用いて発表)

⑥ アドバイザー教員氏名

(提出) 日切り: 12月20日 (金) 提出先: アドバイザーの先生

担当	教務	課	課

※アドバイザーの先生は確認後、「担当」欄に押印願います。その後、教務部に一度ご提出ください。

Before

探究学習計画書は、探究学習に取り組むグループまたは個人単位で作成する。探究テーマと学問や教科学習とのつながり、探究活動によってもたらされる価値、そして中間発表までの活動計画を、アドバイザー役の教師のサポートを受けながら記入する。

課題

- 1 探究学習と大学の学問、高校で学ぶ教科学習とが繋がっていることを実感させたい。
- 2 1年次に学んだ探究学習の基礎的な方法や、思考ツールの活用が、2年次の探究学習につながるようにしたい。

ねらい | 2年次の「総合的な探究の時間」である「アカデメイア探究」では、個人またはグループでテーマを設定した後、約2か月間の探究学習に取り組む。計画書を通して、探究学習の価値、学問や教科学習とのつながりを生徒に広く捉えさせたい。

2年生 探究学習計画書

After

改良ポイント

- 1 計画書作成時に考えた内容が、その後の探究学習の過程における教師やクラスメートとのやり取りを通じて、どのように深まっていったのかを記録させるようにする。
- 2 生徒が自身の探究学習の課題に気づき、思考ツールを使って問題を解決できるよう、教師のかかわり方を例示し、アドバイザー役の教師に共有する。

生徒用

1. 探究テーマと関連する学問

探究テーマ

関連に気づいた学問分野 (計画書作成時) | 関連に気づいた学問分野 (レポート作成時) | 関連に気づいた学問分野 (中間発表時)

(3) 探究計画

①目的 (どんな価値を提案するために探究を行うのか)

計画書作成時の考え

アドバイザーの先生との対話による深まりや気づき

クラスメートとの対話による深まりや気づき

レポート作成時の考え

計画書作成時の考えを、探究学習を進める過程での他者との対話を通じて得られた気づきを基に、生徒に更新させ、その足跡を記録させる。

教師用

■探究の深まりと広がりを促す思考ツール活用例

探究の状況	生徒への声かけ	思考ツール例
<ul style="list-style-type: none"> 分からないことをそのままにしてしまう 自分が今持っている知識や考えの中だけで収束してしまう 分からないことがあると挫折しそうになる 	<p>「何が分からないのか、具体的にどこが分からないかを深掘りしてみよう」</p> <p>「分からないことがあったら、角度を変えて何度も考え直してみよう」</p> <p>「仲間の力も借りて、いろいろな角度から考えてみると、ある時突破できるかも」</p>	<p>ブレインストーミング</p> <p>オズボーンのチェックリスト</p>
<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤をためらい、当たり障りのない展開で終わらせている 失敗の痕跡の残らないノットを目指してしまい、今の時点での考えから抜け出せない どこかで聞いてきたような「正解」をよく理解しないまま再現しようとする 	<p>「集めた情報を整理したり、分析したりする中で驚きはあったかな?」</p> <p>「試行錯誤を経た探究の足跡を、先生に話すことはできる?」</p> <p>「答えが分からないテーマについて探究しているドキドキ感を味わおう」</p>	<p>ロジックツリー</p> <p>K」法</p>

計画書で見取れる生徒の探究学習の課題と、1年次に学習した思考ツールが活用できる局面を対応させたガイドを作成する。



どのような対話を通じて改良できたのかは、次ページで!!



生徒にとって「発表」は確かに探究学習のゴールではありませんが、実際には、発表を経てさらに深まったり、広がったりすることがあるはずです。計画書に、探究学習中や発表後の気づきや変化を記入させることで、探究はそれぞれの内面で続いているということを意識させたいと思いました。



教師がリードして立派な発表をつくり上げるのではなく、生徒の主体的な活動を重視して「大いなる不完全燃焼」を歓迎しようというのが、本校の探究学習における教師のスタンスです。生徒の探究がもっと深く、広くなるような、探究を終わらせない問いかけはどのようなものか、さらに考えていきたいです。



計画書に生徒の思考の変遷を書かせるようにしたことで、アドバイザーである私たちは、生徒に新しい気づきや考えの変化をもたらしたい気持ちがより高まると思います。教師が探究学習にどのようにかかわるのか、生徒に対してどんな役割を担うのか、計画書の改良によって明確になったように思います。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

実録

改良会議

先生方の
対話のダイジェスト他者とかかわる中で探究が深まり、
広がる経験を記録させることで、
生徒が自身の成長を実感

探究学習の壁を自覚させ、思考ツールにつなげる

荻原 計画書は、生徒に考えさせたい内容が多岐にわたっています。計画書の改良ポイントを明確にするため、先生方が探究学習において認識している問題を確認し、その問題は計画書をどのように改良すれば解決するのかを考えていきたいと思っています。

花尻 理想と現実のギャップを埋める「問題解決」と、新しい価値を提案する「価値創造」という、2つの社会貢献の視点から、生徒には自分の生き方を考えられるようになってほしいと思っています。そのため、「問題解決」「価値創造」という視点で自分の探究がどのように深まったのかを、もつと自覚できる取り組みにしていきたいです。そして、探究学習が大学の学問や高校の教科ともつながっていることにも気づいてほしいと思っています。

柴田 探究テーマをもつと深く、もつと多角的に見つめてほしいと思っています。生徒は探究テーマを設定する前に、思考ツールを習得するためのワークに取り組んでいますので、習得した思考ツールを実際の探究学習でもつと生かせるようになってもらい

たいとも思っています。

花尻 イメージマップやフィッシュボーンなどの思考ツールが、生徒の中では知識の範囲にとどまっています。思考ツールを活用することで探究が深まっていくイメージが、十分持てないのかもしれない。

柴田 ただ、教師が生徒に「この思考ツールを使いなさい」と与えるのはよくない気がします。自分の探究を深めたり広げたりする上で、どんな壁に直面しているのか、その壁を打破するためにどんな思考ツールを使うとよいのか、生徒に模索させたいです。

中川 アドバイザー役の教師と語り合う中で、生徒が自分の探究の深まりや広がりを実感し、探究を進めていく手段として主体的に思考ツールを選択できれば、生徒は、他者との対話を通して自分が成長していることを実感できますよね。そのためには、アドバイザー役の教師が、生徒はどんな壁に直面しがちか、その際にどんな言葉で自覚を促すとよいかを整理しておくが必要だと思います。

荻原 私たち社会人も、仕事の中で思考ツールを使うことがあります。その前提として、どのような問題に直面しているのかに気づくことが必要です。



改良会議ファシリテーター



VIEW21編集部
高領域担当
荻原香織
おきはら・かおり

今回は、編集部と学校をオンラインでつなげての改良会議となりました。進め方には不安がありました。指導ツールの改良という本題に入る前に、全員で探究学習の目標や、課題を目線合わせることができたため、後半の会議がスムーズに進んだのだと思います。短時間でも対話の場を持つことの大切さを感じました。

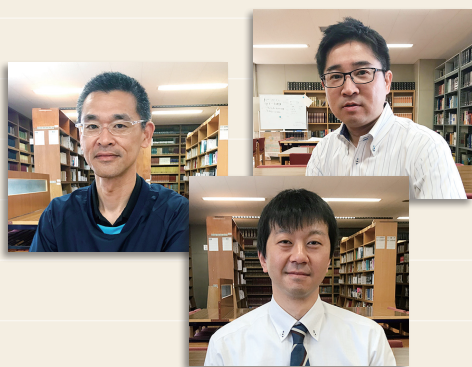
改良会議を振り返って



今回の会議で、対話を通じて改善案が見えてくるプロセスを体験できました。自信を持って生徒に、「探究学習は、他者とのやり取りを通じて深まるものだよ」と伝えたいと思います。

本質を見失わず、発想を広げる楽しさを生徒に味わわせるため、「多角的な突っ込み」をたくさんしていきたいです。教師同士でも、多角的な突っ込みを楽しんでいきたいと思っています。

探究学習にかかわるほど、その面白さと指導の難しさを実感させられます。高校在学中はもろろん、5年後、10年後も、その価値が生き続けるような活動にしていきたいです。



改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています！

「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける学校及び取材を検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの学校のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①～④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認ください

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容（目的・活用時期・活用方法）
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口（0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時）にて承ります。（株）ベネッセコーポレーション CPO（個人情報保護最高責任者）
上記をご承諾くださる方はご送信ください。

そうした気づきを促す教師の役割は重要ですね。
柴田 生徒に対する「探究突っ込みポイント」を、私たちがあらかじめ持つておくことで、生徒を適切に思考ツールの活用へと誘えそうです。

探究学習での気づきを長い時間軸で記録させる

中川 計画書を提出してから成果発表まで2か月程度と、本校の探究学習は短期集中型です。ただ、探究学習の中で気づいたことや生まれた疑問などが、時間の経過とともに具体化するケースもあると思います。例えば、探究テーマと教科とのつながりなどは、探究学習の最中はもちろん、成果発表の後になつて気づくことも多いのではないのでしょうか。そういったことを記録する機会も必要かもしれません。
柴田 昨年度、探究学習の成果発表を見たある先生が、「成果発表後の質疑応答を生かして、さらに探

究が続いていけば、深まりも広がりも増しそうです」と話していました。アドバイザー役の教師やクラスメートなどに向けたミニ発表と質疑応答の場を複数回つくり、そこでの気づきを記録させたいですね。
荻原 計画書に活動前の見通しだけでなく、活動中、活動後の思考の深まりやその変遷も記録させれば、ポートフォリオの機能も持たせられますね。
花尻 アドバイザー役の教師やクラスメートとのやり取りが、自分の探究学習にどのような影響を与えてきたのか、対話の足跡を把握することで、生徒は対話的な学びの価値を理解し、その後の自身の学び方を発展させていけるように思います。
中川 探究学習の成果は、日々の教科学習や進路選択の場面こそ、生徒に実感させたいものです。生徒の興味・関心の深まりや広がりをキャッチして、それぞれの生徒にフィードバックするような声かけ、かわりが必要だと改めて思いました。